

**33** HPLCによる<sup>99m</sup>Tc-(Sn)-ピリドキシリデンアミネイトおよび<sup>99m</sup>Tc-(Sn)-N-ピリドキシリルアミネイトの分析  
東 真, 上田博彦, 葉杖正昭 (日本メジフィックス 技術部)

HPLC (高速液体クロマトグラフィー) を用いて, 22種の表題テクネチウム錯体を分析した。いずれの試料も保持時間の明瞭に異なる3つの放射能ピークを与え, 保持時間と各錯体のラットにおける尿中排泄量の対数値との間には直線関係が認められた。

ピーク分取・再分析を含む種々の検討の結果, 3つの錯体種は平衡混合物ではなく、互いに独立した化学種であり、いずれも良好な肝胆道移行を受けることが示された。さらに混合配位子を用いた実験により各放射能ピークはテクネチウム1原子に対して2個の配位子が配位した錯体より成ることが明らかになった。別途実施した電気泳動による分析結果は各錯体がpH7.0において電気的に中性であることを示した。

22種のHPLCパターンおよび上述の結果を総合的に解釈することにより、各放射能ピークを与える錯体はそれぞれビス(ピリドキシリデンアミナト)テクネチウム(IV)またはビス(N-ピリドキシリルアミナト)テクネチウム(IV)の3種の幾何異性体(mer-,u-fac-,s-fac-)に相当するものと結論し得た。